



ゴリラは、どうして胸^{むね}をたたくの

敵^{てき}をおどすためと、仲間^{なかま}に合図^{あいず}をしている

ゴリラのオスは、一人前^{いちにんまえ}のおとなになると、筋肉^{きんにく}のついた、ぶあつい胸^{むね}を両手^{りょうて}でたたいて、音^{おと}を出す行動^{こうどう}をします。これを、ドラミングといいます。

ドラミングは、何か見^みなれないあやしいものが、近づ^{ちか}いてきたときなど、相手^{あいて}をおどすために^{おこな}行^いわれます。おとなのオスがドラミングをすると、ポコポコというすんだ、よくひびく高い音^{たか}が出^でます。森^{もり}の中^{なか}などでは、2キロメートルも遠^{とお}くまで音^{おと}が伝^{つた}わるといわれ、ゴリラの仲間^{なかま}どうしの合図^{あいず}になります。

自分^{じぶん}が強いオス^{つよ}だと、知^しらせるため

ゴリラは、仲間^{なかま}といっしょに群^{むれ}でくらしています。ふだん^{おこな}行^いわれるドラミングは、仲間^{なかま}に「自分^{じぶん}は、もう一人前^{いちにんまえ}のオスゴリラになっ

たんだよ。」ということを示^{しめ}すためのものです。仲間^{なかま}どうしの中^{なか}で、けんかするときも、自分^{じぶん}のほう^{つよ}が強いゴリラだ、ということを示^{しめ}すため、ドラミング^{おこな}を行います。

子どもゴリラも、おとなのまねをして、遊^{あそ}びでドラミングをします。でも、まだ胸^{むね}の筋^{きん}肉^{にく}ができていないので、おとなの出^だすようなひびく音^{おと}ではなく、ペチャペチャという音^{おと}しか出^だせません。(監修・今泉 忠明)

